

パターンⅡ【先入先出法・完成品単価の計算】

B工場では組製品XとYを製造し、原価計算方法として組別総合原価計算を採用している。原料費は各組製品に直課し、加工費は直接作業時間により各組製品に予定配賦している。原価投入額合計を完成品総合原価と月末仕掛品に配分する方法は先入先出法を採用している。次の【資料】にもとづいて、次の問に答えなさい。なお、減損は工程の途中で発生した正常なものであり、正常減損の処理は度外視法による。

【資料】

1. 生産データ

	X組製品		Y組製品
月初仕掛品量	1,000 kg (50%)	月初仕掛品量	3,000 kg (50%)
当月投入量	20,000 kg	当月投入量	31,500 kg
合計	21,000 kg	合計	34,500 kg
差引：減損量	—	差引：減損量	2,000 kg
月末仕掛品量	2,000 kg (50%)	月末仕掛品量	5,000 kg (40%)
完成品量	19,000 kg	完成品量	27,500 kg

(注) 原料は工程の始点で投入し、()内は加工費の進捗度である。

2. 原価データ

加工費予算額(年間)	152,100,000円
予定直接作業時間(年間)	18,000時間

3. 当月の直接作業時間

X組製品	600時間	Y組時間	840時間
------	-------	------	-------

問1 加工費の予定配賦率を計算しなさい。

加工費の予定配賦率

円/時間

問2 答案用紙の組別総合原価計算表を完成しなさい。

組別総合原価計算表

(単位：円)

	X組製品		Y組製品	
	直接材料費	加工費	直接材料費	加工費
月初仕掛品原価	860,000	111,000	2,985,000	339,000
当月製造費用	9,600,000		21,240,000	
合計				
月末仕掛品原価				
完成品総合原価				

問3 各製品の完成品単位原価を計算しなさい。

X製品完成品単位原価

円

Y製品完成品単位原価

円

参考メモ【仕掛品ボックス】

X組仕掛品ー直接材料費

月初有高		当月完成	
当月投入			
		月末有高	

X組仕掛品ー加工費

月初有高		当月完成	
当月投入			
		月末有高	

Y組仕掛品－直接材料費

月初有高		当月完成	
当月投入		減 損	
		月末有高	

Y組仕掛品－加工費

月初有高		当月完成	
当月投入		減 損	
		月末有高	